
特別寄稿

消化器内視鏡医として

京都第二赤十字病院 消化器内科

安田健治朗

思えば本当に長い京都第二赤十字病院での勤務となりました。

昭和53年（1978年）3月に京都府立医科大学を卒業し、大学では公衆衛生学教室（川井啓市教授）に籍をおいて、京都市立病院内科のレジデントとして内科医としての研修をスタートさせました。この時から将来は消化器内科を専攻しようと思っていましたから、消化器内科以外の内科や外科の研修には今しかないと言う気持ちで特に力を入れました。

昭和56年（1981年）4月から故中島正継先生がおられた滋賀県の琵琶湖胃腸病院に移動し、全くゼロから内視鏡検査を教えていただき、消化器病診療、そして内視鏡診療を始めたのが私の消化器内科医としての始まりでした。小さな消化器疾患専門の病院でしたが、初学者は私のみで何をしても面白かったことを覚えています。琵琶湖に面した小さな病院で胃潰瘍の患者さんなどが時折、琵琶湖に釣り糸を垂らしているような、のんびりした環境でした。

上部、下部の内視鏡検査、内視鏡的逆行性胆膵管造影法（ERCP）、そして中島先生らが開発された内視鏡的乳頭括約筋切開術（EST）や経皮的胆管鏡による胆道結石の治療などを教えていただきました。何かの本のコラムとして依頼された「私の内視鏡の師匠」という短文に私のすべての内視鏡診療の師匠は中島正継先生であると書きました。ただ、手取り足取りと言う教え方ではなく、傍で手伝いをしては何かを得ると言う昔のスタイルで、何より内視鏡検査は今のように内視鏡画面がテレビモニターに映るのではなく、内視鏡の接眼部にレクチャースコープという画像を分けて観察する付属レンズを介しての見学でした。術者は、実際の検査手技が難しくなるのですが、文句を言われることもなく助手をしながら手技の核心を見せていただきました。技術の進歩とは言え、今の若い先生の手技の上達の速さは、個々の素質もあるでしょうが、何時でも何処からでも観察できる内視鏡機器の技術革新によるところが大きいと思われま

す。琵琶湖胃腸病院でのもう一つの技術習得はゴルフでした。当時、内科、外科の先生方は皆さんゴルフに夢中で、仕事が終わると病院隣のゴルフ練習場で汗を流すことが日課となりました。この時は中島先生以外の先生が私の師匠でした。内視鏡の上達より早かったかも知れません。コースにでることも多くなり、素質のないことが判ってもコミュニケーションツールとしては非常に役立つように思います。

その病院では腹部超音波検査機器が早い時期に導入されましたが、他の先生は全く経験のない診断法でしたので、超音波検査はすべて私の担当となり、師匠のいない状況で教科書片手に検査を行いました。この経験が、その後の超音波内視鏡の臨床応用に際して役立つことになりました。

琵琶湖胃腸病院に慣れた頃、今では極普通に行われている超音波内視鏡（内視鏡の先端に超音波振動子が付いた全く新しい機器で正確には内視鏡的超音波断層法、Endoscopic Ultrasonography, EUS）と言われる内視鏡検査の試作機の臨床に立ち会うために教室の先輩がおられた京都第一赤十字病院へ週1回出かけて体腔内（胃の中から見）超音波像をああでもない、こうでもないと検討していました。昭和57年（1982年）には中島先生が京都第二赤十字病院の消化器科部長として移動されていました。

私は昭和58年（1983年）4月から京都第二赤十字病院消化器科へ移動となり、内視鏡の師匠のもとで再び働くことになりました。その後、京都第一赤十字病院の先輩が、開業されるのを機に、これから

どうなることか分からないような試作超音波内視鏡が本院へついてきました。超音波内視鏡は1980年に試作1号機が開発されていきましたから、その初期モデルから臨床の場に立ち会っていたこととなります。その後は本院で超音波内視鏡の臨床応用や臨床研究をしてきました。全く新しい発想の機器であったため、やることのすべてが臨床での新しい知見となり、卒後5年目から内視鏡学会や消化器病学会の地方会のみならず総会での発表、シンポジウムの演者、さらには卒後7年目（1984年5月）には、ニューオリンズで開催されたアメリカ内視鏡学会でポスター発表の機会に恵まれ、はじめての海外、はじめての海外発表で、非常に興奮したことを覚えています。懐かしい思い出です。

その後も内視鏡診療・研究とも非常に恵まれた環境で過ごすことができました。記憶に残ることは、超音波内視鏡検査に夢中であったころ、公衆衛生教室の川井教授から、当時の超音波学会の大御所の札幌医大の先生の所に勉強に行つてはと言われたのですが、中島先生から“止めておけ、今行くとその先生の弟子になる。自分で苦労した方がいい”と言われたことを思い出します。これも何かの本に書いたことですが、“私の内視鏡の師匠は中島先生ですが、超音波内視鏡に関して、私の師匠は、私自身と解剖の教科書でした”。勿論、中島先生をはじめとする先輩、同僚、院内すべての皆さまのご協力で、こと超音波内視鏡診療についてはわが国のみならず、世界のリーダーのひとりになれたと思っています。これもひとえにこれまで、一緒に仕事をしてきたすべての皆さまのお陰と感謝いたします。ありがとうございました。

川井先生、中島先生の教えのもう一つのKey wordは、発表だけで仕事が終わるのではない。論文、特に英文にして初めて終わりになると言われたことでした。その中島先生は原稿を丁寧に書かれる性格（なかなか完成しない）で、消化器内視鏡関連の商業誌ではブラックリストに載るほど、自他ともに認められた遅筆家でした。私も少々師匠の性格を引き継いでいますが、何れにせよ論文にするネタも多くありましたので、結構、頑張つて論文を書いてきました。今では英文論文が当たり前のことですが、当時、わが国発の内視鏡に関する論文は日本語で十分という風潮がありました。勿論、世界的な評価は英文論文からしか生まれないものです。

この間、海外での発表、講演は多くなりましたが、最終的に残るのは英語論文であるという考えから、できるだけ英語論文を書いていたように思います。若い先生には折角、時間とエネルギーを使うなら、英語論文になるか考えることをお勧めします。

原稿を書きながら思い出すことに、昔は、依頼原稿の締め切りが近づくと、プレッシャーで夜中に目が覚めて、原稿を書くと言う生活をしてきました。原稿を郵送するために夜中に京都駅の西にあった郵便局本局へ何度か行きました。また、除夜の鐘を聞きながら原稿を完成させた年も何度かありました。その後、段々と図々しくなり、締め切りが迫っても夜中に目が覚めることもなくなり、たとえ目が覚めても、まあ、いいか、命まで取られることはないだろうと再び眠りにつけるようになってきました。私の世代はいわゆる“ながら族”で、筆の進まない（さすがに手書きは卒後何年かだけでしたが）時は、当時人気のあったシルベスタスタローン主演のロッキーのテーマを聞きながら、依頼原稿書きをしていました。今思えば、決して冷静な論文が書けなかつたらうと反省していますが、勢いで原稿書きをしていました。今も若干、その傾向があります。

最初の原稿は勿論、手書き原稿でした。また最初の英語論文の作成は手動のオリベッティのタイプライターで打ちました。当時、医局にあったIBMの電動タイプライターを羨ましく、何時か電動タイプライターを買おうと思い、とうとうオリベッティの電動タイプライターを手に入れましたが、ワープロの発売とともに、元を取ることなく使わなくなったように思います。その後は、いわゆるパソコンになりましたが、鉛筆から、タイプライター、ワープロ、そして、パソコン（デスクトップ、ラップトップ）とかなりの出費をしたことも事実です。元が取れたか否か、いまでも不明としておきますが、多分、全く元は取れていないように思います。ついですが、発表用のスライド作成の変化も大きなものでした。最初は手書き原稿を、ブルースライドに焼き付ける方法（私は経験していない）に始まり、写植、和文

タイプによる原稿作り，写真撮影，スライドのマウントなどすべて自分でやってきた時代を知るものにとって，今日のパワーポイントによるスライド作成は如何に楽で，発表直前でも自在に編集可能であることは，夢のようであり，昔には戻れない，驚くべき進歩です。今，このような状況を知る方は，もう少数だと思えます。

何れにしても，私の内視鏡人生は，師，同僚，部下そして，周りの方々に恵まれ，充実したものであったと感謝しています。

振り返れば“超音波内視鏡”が私の内視鏡人生そのものだと言ってもいいように思いますが，同時に様々な新しい内視鏡検査や内視鏡治療の誕生した時期に内視鏡医として過ごせたことは幸運であったとしか言えません。今盛んに行われている手技から，今はもう消え去った多くの試みなどを経験させていただきました。

なぜ超音波内視鏡を始めたのかとよく尋ねられるのですが，私の超音波内視鏡との出会いは，犬が歩いて棒に当たったようなものです。超音波内視鏡が将来どうなるか分からない状態での開発直後の状況を思い出すと，今の隆盛を他人事のように眺めながら，この先どうなっていくのかあれこれ想像することが幸せなひと時になってきました。幸運に恵まれ，諦めないで良かったという思いだけです。マッカーサーが引退するときの，“Old soldiers never die; they just fade away”の心境です。

最後に若い皆さまへの少し長い申し送り（遺言）をしたいと思えます。まずは，仕事に関することは何にでも興味を持つことです。全く新しいことがその先どのように変化し，進歩するかは，予想もできませんし，当事者はその重要性になかなか気が付かないものです。面白いと感じる感性を大切にしてください。そして自分で考え，工夫することを忘れないでください。確かに昔と比べ医療の自由度は少なくなっていますが，諦めないでください。

もうひとつは記録に残すことです。発表することも大切ですが，最終的には原稿にしてください。できれば英文論文に。市中病院でも臨床研究の材料はいくらでもあります。基礎研究だけが研究ではありません。そして，“和”を大切にしてください。ひとの和，調和，平和など極めて日本人的な発想ですが，何事も一人でできるものではありません。

皆さまの分野を問わないご健闘とご健勝を祈念して散文の終わりとします。ありがとうございました。

最後に自己満足のようなのですが，これまで書き残してきた私の原稿を種類別，年代順に挙げて稿の終わりにします。共著論文を挙げればもっと多くあるのですが，ここでは，手書き，ワープロ，デスクトップ，ラップトップで，ロッキーのテーマを聞きながら自身で書いてきた筆頭者原稿のみを挙げさせていただきます。35年に渡る本院消化器内科における業績です。

安田論文集（筆頭論文のみ）

英文原著

- 1) Yasuda K, Fujimoto S, Nakajima M. Use of endoscopic ultrasonography in small pancreatic cancer. Scand. J. Gastroenterol. **19** : 9-17, 1984.
- 2) Yasuda K, Nakajima M, Kawai K. Technical aspects of endoscopic ultrasonography of the biliary system. Scand. J. Gastroenterol. **21** : 143-150, 1986.
- 3) Yasuda K, Nakajima M, Kawai K. Endoscopic ultrasonography in the diagnosis of submucosal tumor of the upper digestive tract. Scand. J. Gastroenterol. **21** : 59-67, 1986.
- 4) Yasuda K, Nakajima M, Fujimoto S, Kiyota K. Detection of small tumors of the pancreas by endoscopic ultrasonography. Recent Topics of Digestive Endoscopy : 87-95, 1987
- 5) Yasuda K, Kiyota K, Nakajima M, Kawai K. Fundamentals of endoscopic laser therapy (ELT) for GI tumors-New aspects with endoscopic ultrasonography (EUS). Endoscopy **19** : 2-6, 1987.
- 6) Yasuda K, Mukai H, Cho E, Nakajima M, Kawai K. The use of endoscopic ultrasonography in the diagnosis and staging of carcinoma of the papilla of Vater. Endoscopy. **20** : 218-222, 1988.

- 7) Yasuda K, Mukai K, Fujimoto S, Nakajima M, Kawai K. The diagnosis of pancreatic cancer by endoscopic ultrasonography. *Gastrointest Endosc.* **34** : 1-8, 1988. (学位論文)
- 8) Yasuda K, Nakajima M, Cho E, Mukai H, Kawai K. Comparison of peroral and percutaneous cholangioscopy. *Endoscopy.* **21** : 347-350, 1989.
- 9) Yasuda K, Nakajima M, Yoshida S, Kiyota K, Kawai K. The diagnosis of submucosal tumors of the stomach by endoscopic ultrasonography. *Gastrointest. Endosc.* **35** : 10-15, 1989.
- 10) Yasuda K, Cho E, Nakajima M, Kawai K. Diagnosis of submucosal lesions of the upper gastrointestinal tract by endoscopic ultrasonography. *Gastrointest Endosc.* **36** : 17-20, 1990.
- 11) Yasuda K, Mukai H, Nakajima M, Kawai K. Clinical application of ultrasonic probe in the biliary and pancreatic duct. *Endoscopy.* **24** : 370-375, 1992.
- 12) Yasuda K, Nakajima M, Kawai K. Endoscopic diagnosis and treatment of early gastric cancer. *Gastrointest Endosc Clin N Am.* **2** : 495-507, 1992.
- 13) Yasuda K, Nakajima M, Kawai K. Endoscopic ultrasonography imaging of submucosal lesions of the upper gastrointestinal tract. *Gastrointest Endosc Clin N Am.* **2** : 615-624, 1992.
- 14) Yasuda K, Mukai H, Nakajima M. Staging of pancreatic carcinoma by endoscopic ultrasonography. *Endoscopy.* **25** : 151-155, 1993.
- 15) Yasuda K, Mizuma Y, Nakajima M. Endoscopic laser treatment for early gastric cancer. *Endoscopy.* **25** : 451-454, 1993.
- 16) Yasuda K. Development and clinical use of ultrasonic probes. *Endoscopy.* **26** : 816-817, 1994.
- 17) Yasuda K, Mukai H, Nakajima M. Endoscopic ultrasonography diagnosis of pancreatic cancer. *Gastrointest Endosc Clin N Am.* **5** : 699-712, 1995
- 18) Yasuda K. Endoscopic ultrasonic probes and mucosectomy for early gastric carcinoma. *Gastrointest Endosc.* **43** : 29-31, 1996.
- 19) Yasuda K. Ultrasonic probes for pancreaticobiliary stricture. *Gastrointestinal Endoscopy.* **43** : 35-37, 1996.
- 20) Yasuda K, Uno K, Tanaka K, Nakajima M. EUS guided fine needle aspiration biopsy (FNA)-Indication and hazard. *Endoscopy.* **30** : 163-165, 1998.

英文総説

- 1) Yasuda K. Development and clinical use of ultrasonic probes. *Proceedings of the 9th International Symposium on Endoscopic Ultrasonography.* *Endoscopy* **26** : 816-817, 1994.
- 2) Yasuda K. Role of EUS in biliopancreatic diseases. *Syllabus book, 4th workshop on diagnostic and therapeutic endoscopy, Seoul, Korea 22-25, 1995.*
- 3) Yasuda K. Education and training in endoscopic ultrasonography in Japan. *Endoscopy.* **30** : 22-25, 1998.
- 4) Yasuda K. Three-dimensional image construction and fine-needle aspiration under endoscopic ultrasonography. *Dig Endosc.* **12** : 65-66, 2000.
- 5) Yasuda K. Clinical uses of highresolution and high-magnification endoscopy for upper gastrointestinal lesions. *Dig Endosc* **13**(Suppl) : 36-39, 2001.
- 6) Yasuda K. EUS in the detection of early gastric cancer. *Gastrointest Endosc* **56**(4 Suppl) : S68-75, 2002
- 7) Yasuda K, Uno K, Tanaka K, Nakajima M, Applications and problems relating to EMR of tumors of the papilla of Vater: Endoscopic resection of tumor of papilla Vater: our experiences. *Dig Endosc.* **15**(Suppl.) : S31-S32, 2003
- 8) Yasuda K, Possibility of the development and clinical use of a capsule ultrasound endoscope. *Dig Endosc.* **16**(Suppl.2) : S251-S252, 2004
- 9) Yasuda K, Sakata M, Ueda M, Uno K, Nakajima M, The use of pancreatoscopy in the diagnosis of intraductal papillary mucinous tumor of the pancreas. *Clin Gastroenterol Hepatol.* **3** : s53-s57, 2005
- 10) Yasuda K, Kamaguchi M, Morikawa J, Honda M, Nakajima M. Role of endoscopic ultrasonography in the diagnosis of early esophageal carcinoma. *Gastrointest Endosc Clin N Am.* **15** : 93-9, 2005
- 11) Yasuda K. Early gastric cancer: diagnosis, treatment techniques and outcomes. *Eur J Gastroenterol Hepatol* **18** : 839-45, 2006
- 12) Yasuda K. EUS: state of the art in Asia. *Gastrointest Endosc.* **69**(2 Suppl) : S226-7, 2009
- 13) Yasuda K. Imaging alone is sufficient in most circumstances—making the case for limited need for FNA. *Gastrointest Endosc.* **69**(2 Suppl) : S155-6, 2009
- 14) Yasuda K, EUS in the detection of early gastric cancer, *Gastrointest. Endosc.* **56**(Suppl) : s68-s75, 2002

- 14) Yasuda K, Endoscopic Ultrasonography in Japan and The Rest of The World Digestive Endoscopy. **15**(Suppl) , : s18-s20, 2002
- 15) Yasuda K, Uno K, Tanaka K, Nakajima M. Endoscopic Resection of Tumor of Papilla Vater: Our Experiences. Dig Endosc. **15**(Suppl) : s31-s32, 2003
- 16) Yasuda K. Preface ; Focus on the Future. Dig Endosc. **16**(Suppl) : s137, 2004
- 17) Yasuda K, Ogawa M, Nakajima M. Newly Developed Ultrasound Endoscope With An Electronic Radial Array Transducer. Dig Endosc. **16**(Suppl) : s219-s222, 2004
- 18) Yasuda K, Possibility of The Development and Clinical Use of A Capsule Ultrasound Endoscope. Dig Endosc. **16**(Suppl) : s251-s252, 2004
- 19) Yasuda K, Sakata M, Ueda M, Uno K, Nakajima M. The use of pancreatoscopy in the diagnosis of intraductal papillary mucinous tumor lesions of the pancreas. Clin Gastroenterol Hepatol. **3**(7 Suppl 1) : S53-7, 2005
- 20) Yasuda K, Kamaguchi M, Morikawa J, Honda M, Nakajima M. Role of endoscopic ultrasonography in the diagnosis of early esophageal carcinoma Gastrointest Endosc Clin N Am. **15** : 93-99, 2005
- 21) Yasuda K, Preface; Proceeding of the Endoscopy Forum japan 2009 Dig Endosc. **22**(Suppl 1) : 1, 2010
- 22) Yasuda K., Preface, Dig Endosc. **23**(Suppl 1) : 1, 2011
- 23) Yasuda K. Preface; Dig Endosc. **24**(Suppl 1) : 1-2, 2012
- 24) Yasuda K, Preface; Proceeding of the Endoscopy Forum Japan 2012 Dig Endosc. **25**(Suppl 2) : 1, 2013
- 25) Yasuda K, Preface; Proceeding of the Endoscopy Forum Japan Dig Endosc. **26**(Suppl 2) : 1, 2014
- 26) Yasuda K, Memorial address for Dr. Masatsugu Nakajima, Digestive Endoscopy, **29**(Suppl 2) : 2, 2017

英文著書

個人著書

- 1) Yasuda K. The handbook of endoscopic ultrasonography in digestive tract.1st ed. Blackwell Science Japan, Tokyo : pp1-152, 2000.

分担執筆

- 1) Yasuda K, Nakajima M, Kawai K. Malignant lesions of the gastrointestinal tract. In: Kawai K, ed. Endoscopic ultrasonography in gastroenterology Igaku-shoin, Tokyo : pp56-71, 1988.
- 2) Yasuda K, Nakajima M, Kawai K. Diseases of the biliary tract and the papilla of Vater. In: Kawai K, ed. Endoscopic ultrasonography in gastroenterology. Igaku-shoin, Tokyo : pp96-105, 1988.
- 3) Yasuda K, Kiyota K, Mukai H, Cho E, Anatomical aspects of endoscopic ultrasonography. In: Kawai K, ed Endoscopic ultrasonography in gastroenterology. Igaku-shoin, Tokyo : pp140-158, 1988.
- 4) Yasuda K, Nakajima M, Kawai K. Endoscopic ultrasonography. In: Chan Sup Shim, ed. 腹部超音波診断 (韓国語) 麗文閣 (Ryo Moon Gak) , Seoul, Korea : pp519-546, 1988.
- 5) Yasuda K, Nakajima M, Mukai H. The detection of small pancreatic cancer by endoscopic ultrasonography. In: Dancygier H, Classen M, ed. 5th International symposium on endoscopic ultrasonography. Demeter Verlag, Germany : pp86-91, 1989.
- 6) Yasuda K, Nakajima M, Cho E. Benign versus malignant gastric ulcers: A role for endoscopic ultrasonography? In: Dancygier H, Classen M, ed. 5th International symposium on endoscopic ultrasonography, Demeter Verlag, Germany : pp50-56, 1989.
- 7) Yasuda K, Nakajima M, Kawai K. Endosonography in the diagnosis and staging of pancreatic cancer. In: Freeny P C, Stevenson G W, ed. Margulis and Burhenne's Alimentary. Tract Radiology. Mosby, St. Louis, USA : pp1127-1131, 1994
- 8) Yasuda K, Nakajima M, Kawai K. Role of endoscopic ultrasonography in the diagnosis of pancreatic cancer. In: Gondolfi L, Fukuda M, ed. Current trend digestive ultrasonography, Front Gastrointest Res. Karger, Basel : pp203-219, 1997.
- 9) Yasuda K. Nakajima M, Kawai K. Endoscopic diagnosis of cancer of the pancreas. In: Michael V Sivak, Jr., ed. Gastroenterologic Endoscopy. 2nd ed. CD-ROM. W. B. Saunders, Philadelphia : Chaper 77, 1998
- 10) Yasuda K. Submucosal tumors of the upper gastrointestinal tract: Evaluation by endoscopic ultrasonography. In: Morton A Mayers, ed. Neoplasmas of the digestive tract, Imaging, staging and management. Lippincoll-Raven, Philadelphia, USA : pp85-92, 1998.
- 11) Yasuda K. High-resolution endoluminal sonography of the upper gastrointestinal tract. In: Van Dam J, Sivak Jr M V., ed.

Gastrointestinal endosonography. W.B. Saunders Co. Philadelphia, USA : pp95-100, 1999.

- 12) Yasuda K, Nakajima M, Kawai K. Endoscopic diagnosis of cancer of the pancreas. In: Michael V Sivak, Jr., ed. Gastroenterologic Endoscopy. W. B. Saunders, Philadelphia : pp1159-1182, 2000.
- 13) Yasuda K, et al, Endoscopy Forum Japan (EFJ)-History and Contents of the Meeting, In: Tajiri H, Nakajima, M, Yasuda K, ed. New Challenges in Gastrointestinal Endoscopy, Springer, Tokyo : pp545-551, 2008

和文原著

- 1) 安田健治朗, 光吉靖夫, 竹林政史, 中島正継, 上田 忠, 菅原侠治, 加藤守彦. US および ERCP にて術前診断しえた早期胆のう癌の1例. 胃と腸 **17** : 655-659, 1982.
- 2) 安田健治朗, 清田啓介, 向井秀一, 西村和彦, 趙 栄済, 小林正夫, 吉田俊一, 今岡 渉, 藤本荘太郎, 中島正継, 田中義憲, 川井啓市. 内視鏡的超音波断層法 (EUS) の臨床的評価. Gastroenterol. Endosc. **26** : 1911-1923, 1984.
- 3) 安田健治朗, 向井秀一, 吉田俊一, 今岡 渉, 藤本荘太郎, 中島正継, 川井啓市. 膵・胆道癌診断における内視鏡的超音波断層法 (EUS) の意義 - 特に小病変について -. Gastroenterol. Endosc. **27** : 943-954, 1985.
- 4) 安田健治朗, 清田啓介, 向井秀一, 西村和彦, 趙 栄済, 小林正夫, 吉田俊一, 今岡 渉, 藤本荘太郎, 中島正継, 川井啓市. 内視鏡的超音波断層法 (EUS) による上部消化管病変の診断 - 胃癌深達度診断を中心に -. Gastroenterol. Endosc. **28** : 253-263, 1986.
- 5) 安田健治朗, 清田啓介, 向井秀一, 西村和彦, 趙 栄済, 小林正夫, 吉田俊一, 今岡 渉, 藤本荘太郎, 中島正継. 内視鏡的超音波断層法 (EUS) による上部消化管粘膜下腫瘍の診断. Gastroenterol. Endosc. **28** : 685-691, 1986.
- 6) 安田健治朗, 清田啓介, 向井秀一, 西村和彦, 趙 栄済, 小林正夫, 吉田俊一, 今岡 渉, 藤本荘太郎, 中島正継. 内視鏡的超音波断層法 (EUS) を用いた内視鏡的食道静脈瘤硬化療法 (EIS) の治療硬化判定. Gastroenterol. Endosc. **28** : 1788-1795, 1986.

和文総説

- 1) 安田健治朗, 清田啓介, 向井秀一, 西村和彦, 趙 栄済, 小林正夫, 吉田俊一, 今岡 渉, 藤本荘太郎, 中島正継, 川井啓市. 肝・膵・膵疾患に対する EUS の臨床的評価. 日本臨床 **42** : 2249-2258, 1984.
- 2) 安田健治朗. 超音波内視鏡を用いた胃癌深達度診断. 京都外科医報 **11-15**, 1986.
- 3) 安田健治朗, 向井秀一, 清田啓介, 西村和彦, 趙 栄済, 小林正夫, 吉田俊一, 今岡 渉, 藤本荘太郎, 中島正継. 超音波断層法 (US) による早期胆嚢癌の診断 - その可能性と限界. 胃と腸 **21** : 497-505, 1986.
- 4) 安田健治朗, 中島正継, 徳田 一, 川井啓市. がんの画像診断図譜, III. 腹部 **3**. 胃. 総合臨床 **36**(増刊号) : 1063-1076, 1987.
- 5) 安田健治朗, 清田啓介, 趙 栄済, 水野成人, 芦原 亨, 吉田俊一, 藤本荘太郎, 中島正継. 超音波内視鏡を用いた胃病変診断. 腹部画像診断 **18** : 79-85, 1988.
- 6) 安田健治朗, 清田啓介, 趙 栄済, 水野成人, 芦原 亨, 松井亮好, 水間美宏, 西村和彦, 小林正夫, 吉田俊一, 藤本荘太郎, 中島正継. 超音波内視鏡からみた胃潰瘍形態と治癒過程 - 難治性潰瘍診断を目指して -. 胃と腸 **23** : 511-518, 1988.
- 7) 安田健治朗, 清田啓介, 水間美宏, 松井亮好, 中島正継, 川井啓市. 消化器疾患における内視鏡の応用 III. 総合臨床 **37** : 519-525, 1988.
- 8) 安田健治朗. 超音波内視鏡の現状と展望 - EUS スコープによる表層, 断層診断のルーチン検査に期待 -. 新医療 **16** : 84-88, 1989.
- 9) 小越和栄, 小野美貴子, 安田健治朗, 木村 健, 池田靖洋, 岡村毅与志, 武内俊彦, 中沢三郎. 胆道疾患の非手術的治療の進歩 (座談会). 胃と腸 **24** : 774-790, 1989.
- 10) 安田健治朗, 中島正継, 趙 栄済, 向井秀一, 水間美宏, 早雲孝信, 芦原 亨, 水野成人, 平野誠一, 林 誠, 池田悦子, 小西淳一, 田中聖人, 宇野耕治. 内視鏡的超音波断層法. 京都第二赤十字病院医学雑誌 **11** : 48-72, 1990.
- 11) 安田健治朗, 松井亮好, 早雲孝信, 中島正継. 超大口径留置チューブ (14Fr, 15Fr) を用いた内視鏡的胆道ドレナージ法. 消化器内視鏡 **2** : 397-403, 1990.
- 12) 安田健治朗, 中島正継, 趙 栄済, 向井秀一, 水間美宏, 早雲孝信, 松井亮好, 芦原 亨, 水野成人, 村北 肇, 平野誠一, 小林正夫. EST の長期成績 - 内科的立場からみた長期予後 -. 消化器内視鏡 **2** : 621-626, 1990.

- 13) 安田健治朗. 用語解説－上部消化管の超音波内視鏡. 消化器内視鏡 **2**: 1435-1438, 1990.
- 14) 安田健治朗, 宇野耕治, 田中聖人, 池田悦子, 平野誠一, 水野成人, 芦原 亨, 早雲孝信, 水間美宏, 向井秀一, 趙 栄済, 中島正継. 膵癌診断における超音波内視鏡－ERCPと対比して. 消化器内視鏡 **3**: 863-871, 1991.
- 15) 安田健治朗, 宇野耕治, 田中聖人, 池田悦子, 平野誠一, 水野成人, 芦原 亨, 早雲孝信, 水間美宏, 向井秀一, 趙 栄済, 中島正継. 上部消化管良性疾患に対するEUS診断. 腹部画像診断 **11**: 511-516, 1991.
- 16) 安田健治朗, 中島正継. 超音波内視鏡からみたPPI. 医学のあゆみ **159**: 799-803, 1991.
- 17) 安田健治朗, 中島正継, 趙 栄済, 向井秀一, 水間美宏, 早雲孝信, 芦原 亨, 水野成人, 平野誠一, 池田悦子, 道上 学, 小林正夫, 松井亮好. PTCS, 超音波プローブによる胆管癌の診断. 消化器内視鏡 **4**: 323-331, 1992.
- 18) 安田健治朗, 宇野耕治, 田中聖人, 道上 学, 池田悦子, 平野誠一, 水野成人, 芦原 亨, 早雲孝信, 水間美宏, 向井秀一, 趙 栄済, 中島正継. 超音波内視鏡による早期胃癌の鑑別－内視鏡治療を目的に. 胃と腸 **27**: 1167-1174, 1992.
- 19) 安田健治朗, 向井秀一, 中島正継. 十二指腸乳頭部腫瘍の超音波内視鏡による診断. Gastro. **2**: 31-35, 1992.
- 20) 安田健治朗, 中島正継, 趙 栄済, 向井秀一, 早雲孝信, 芦原 亨, 水野成人, 平野誠一, 望月直美, 田中聖人, 宇野耕治, 富岡秀夫. 傍乳頭憩室と胆道疾患. 消化器内視鏡 **5**: 1437-1444, 1993.
- 21) 安田健治朗. 特集シマウマ探しに陥らない－まれな疾患をどこまで追うか 繰り返す腹痛. JIM **3**: 134-136, 1993.
- 22) 安田健治朗. 超音波内視鏡からみたオメプラゾールによる胃潰瘍治癒過程の特徴. 医報フジ **20-25**, 1993.
- 23) 安田健治朗, 宇野耕治, 田中聖人, 平野誠一, 中島正継. 超音波内視鏡による胃粘膜癌の診断－微小胃癌診断の意義, 微小胃癌診断の現状2, 内視鏡診断. 臨床消化器内科 **8**: 1537-1544, 1993.
- 24) 安田健治朗, 平野誠一, 水野成人, 早雲孝信, 向井秀一, 中島正継. 内視鏡的逆行性胆道ドレナージ (ERBD) の合併症と偶発症. 消化器内視鏡 **6**: 501-508, 1994.
- 25) 安田健治朗, 塚田圭子, 富岡秀夫, 東條正英, 宇野耕治, 田中聖人, 望月直美, 平野誠一, 水野成人, 芦原 亨, 早雲孝信, 向井秀一, 趙 栄済, 中島正継. 胆道良性病変診断における経皮経肝胆道鏡検査 (PTCS) と超音波検査. 消化器内視鏡 **6**: 751-759, 1994.
- 26) 安田健治朗, 平野誠一, 早雲孝信, 向井秀一, 中島正継. 外科医のための超音波内視鏡－膵・胆道の超音波内視鏡診断. 外科診療 **36**: 981-993, 1994.
- 27) 幕門博康, 藤野雅之, 安田健治朗, 他. 内視鏡医をどう育てるか－認定医から指導医まで－(座談会). 消化器内視鏡 **6**: 1603-1616, 1994.
- 28) 安田健治朗, 中島正継, 趙 栄済, 向井秀一, 早雲孝信, 芦原 亨, 平野誠一, 望月直美, 田中聖人, 宇野耕治, 東條正英, 塚田圭子, 上田モオセ. 総胆管結石に対する経皮経肝のアプローチの効用と意義. 消化器内視鏡 **7**: 357-362, 1995.
- 29) 安田健治朗, 塚田圭子, 東條正英, 宇野耕治, 田中聖人, 望月直美, 平野誠一, 芦原 亨, 早雲孝信, 向井秀一, 趙 栄済, 中島正継. 早期胃癌診断の進歩－超音波内視鏡による深達度診断と問題点. 臨床消化器内科 **10**: 65-74, 1995.
- 30) 安田健治朗, 中島正継. 超音波内視鏡による膵疾患診断 (膵疾患の臨床－最近の進歩). 臨床消化器内科 **10**: 979-989, 1995.
- 31) 安田健治朗. 序説: 小膵癌診断の進歩と内視鏡. 消化器内視鏡 **7**: 1058-1059, 1995.
- 32) 安田健治朗, 矢崎とも子, 田中聖人, 向井秀一, 中島正継, 前田基彰. 胃病変を伴った梅毒. 消化器内視鏡 **7**: 1736-1738, 1995.
- 33) 安田健治朗. 潰瘍, Q&A. メディカル朝日 **4**: 74-75, 1996.
- 34) 安田健治朗. 超音波内視鏡の最新動向－超音波内視鏡診断は何処へ向かうのか? 新医療 **23**: 73-75, 1996.
- 35) 安田健治朗, 上田モオセ, 塚田圭子, 矢崎とも子, 富岡秀夫, 東條正英, 宇野耕治, 田中聖人, 望月直美, 平野誠一, 芦原 亨, 早雲孝信, 向井秀一, 趙 栄済, 中島正継. 超音波内視鏡による胃病変診断. 臨床消化器内科 **11**: 1188-1196, 1996.
- 36) 安田健治朗. 内視鏡的超音波検査法. 内科キーワード400. 内科 **77**: 1117, 1996.
- 37) 安田健治朗, 中島正継, 趙 栄済, 向井秀一, 早雲孝信, 芦原 亨, 平野誠一, 望月直美, 田中聖人, 宇野耕治, 東條正英, 富岡秀夫, 矢崎とも子, 塚田圭子, 上田モオセ, 宮田正年. 超音波断層法 (US) による乳頭部腫瘍の診断. 消化器内視鏡 **8**: 761-767, 1996.

- 38) 安田健治朗, 中島正継, 趙 栄済, 向井秀一, 早雲孝信, 芦原 亨, 平野誠一, 望月直美, 田中聖人, 宇野耕治, 東條正英, 富岡秀夫, 矢崎とも子, 塚田圭子, 上田モオセ, 宮田正年. 消化器疾患診断における内視鏡的超音波断層法. 映像情報 Medical **28**: 853-860, 1996.
- 39) 安田健治朗, 中島正継, 趙 栄済, 向井秀一, 早雲孝信, 芦原 亨, 平野誠一, 望月直美, 田中聖人, 宇野耕治, 東條正英, 富岡秀夫, 矢崎とも子, 塚田圭子, 上田モオセ, 宮田正年, 李 相植. 急性胆道感染症の対処法－対処法の選択, 最善の道は. 消化器内視鏡 **8**: 1601-1606, 1996.
- 40) 安田健治朗, 中島正継, 趙 栄済, 向井秀一, 芦原 亨, 平野誠一, 望月直美, 田中聖人, 宇野耕治, 東條正英, 富岡秀夫, 矢崎とも子, 塚田圭子, 上田モオセ, 宮田正年, 李 相植. 嚢胞性膵腫瘍の診断法－画像診断法を中心に. 消化器内視鏡 **9**: 17-23, 1997.
- 41) 安田健治朗, 中島正継, 趙 栄済, 向井秀一, 芦原 亨, 平野誠一, 望月直美, 田中聖人, 宇野耕治, 東條正英, 富岡秀夫, 矢崎とも子, 塚田圭子, 上田モオセ, 宮田正年, 李 相植. EUS による膵癌の診断. 消化器内視鏡 **9**: 655-660, 1997.
- 42) 安田健治朗. 日経メディクイズ, 腹部 CT. Nikkei Medical **91-92**, 1997.
- 43) 安田健治朗. 処置用スコープ胆, 膵用. 消化器内視鏡 **9**: 1487, 1997.
- 44) 安田健治朗. 超音波内視鏡の新展開と課題. The Medical and Test Journal **4**, 1997.
- 45) 安田健治朗, 中島正継, 趙 栄済, 向井秀一, 芦原 亨, 平野誠一, 望月直美, 田中聖人, 宇野耕治, 東條正英, 富岡秀夫, 矢崎とも子, 塚田圭子, 上田モオセ, 宮田正年, 李 相植. 十二指腸乳頭部癌の診断, EUS の立場から. 胃と腸 **32**: 151-156, 1997
- 46) 安田健治朗. 超音波内視鏡の新しい展開－EUS の三次元構築. 臨床消化器内科 **13**: 1799-1803, 1998.
- 47) 安田健治朗. 超音波内視鏡の読み方－膵癌診断. 臨床消化器内科 **13**: 669-673, 1998.
- 48) 安田健治朗. 超音波内視鏡の読み方－EUS による胆嚢, 胆管病変診断. 臨床消化器内科 **13**: 1313-1317, 1998
- 49) 安田健治朗. 超音波内視鏡による粘膜下腫瘍の診断. 臨床消化器内科 **13**: 299-305, 1998
- 50) 安田健治朗. 超音波内視鏡の読み方－その他の消化管病変. 臨床消化器内科 **13**: 531-535, 1998
- 51) 安田健治朗. 超音波内視鏡診断の現況と問題点. 医学のあゆみ, 消化器疾患－state of arts, I, 胃, 腸: 168-171, 1998.
- 52) 安田健治朗. 超音波内視鏡の読み方, 超音波内視鏡で観察される正常断層像と走査法. 臨床消化器内科 **13**: 143-150, 1998
- 53) 安田健治朗, 中島正継, 趙 栄済, 向井秀一, 芦原 亨, 平野誠一, 望月直美, 田中聖人, 宇野耕治, 富岡秀夫, 塚田圭子, 上田モオセ, 宮田正年, 李 相植, 酒田宗博. 超音波断層法からみた胆道癌の進展度診断－US, EUS, IDUS. 肝胆膵 **36**: 69-77, 1998
- 54) 安田健治朗. 超音波内視鏡の読み方, 消化管癌深達度診断－胃癌診断を中心に. 臨床消化器内科 **13**: 415-420, 1998.
- 55) 安田健治朗. 超音波内視鏡の読み方, 嚢胞性膵疾患の EUS 診断. 臨床消化器内科 **13**: 833-837, 1998.
- 56) 安田健治朗. 超音波内視鏡の読み方, EUS による乳頭部癌診断. 臨床消化器内科 **13**: 1415-1417, 1998.
- 57) 安田健治朗, 富岡秀夫, 中島正継. EUS と IDUS による膵炎と膵癌の鑑別. Medical Practice **15**: 1351-1355, 1998.
- 58) 安田健治朗. 胆, 膵の局所解剖. 消化器内視鏡 **10**: 1218-1221, 1998
- 59) 安田健治朗. 超音波内視鏡の読み方, 超音波プローブによる胆膵病変の診断. 臨床消化器内科 **13**: 1565-1569, 1998.
- 60) 安田健治朗. 超音波内視鏡の読み方, 画像診断から組織診断へ－超音波内視鏡下穿刺細胞診と穿刺ドレナージ. 臨床消化器内科 **13**: 1691-1694, 1998.
- 61) 安田健治朗. 超音波内視鏡の読み方, 超音波内視鏡の新しい展開－EUS 像の三次元構築. 臨床消化器内科 **13**: 1799-1803, 1998.
- 62) 安田健治朗. 超音波内視鏡の読み方, 内視鏡的超音波検査の実際と機種を選択. 臨床消化器内科 **13**: 1913-1917, 1998.
- 63) 安田健治朗, 酒田宗博, 河端秀明, 上野山義人, 長谷川和範, 宮田正年, 上田モオセ, 塚田圭子, 宇野耕治, 田中聖人, 望月直美, 早雲孝信, 趙 栄済, 中島正継. 早期胃癌の EUS 診断－機種による差はあるのか. 胃と腸 **34**: 1119-1126, 1999.
- 64) 安田健治朗, 中島正継, 趙 栄済, 早雲孝信, 望月直美, 田中聖人, 宇野耕治, 塚田圭子, 上田モオセ, 宮田正年, 長谷川和範, 上野山義人, 河端秀明, 酒田宗博. 腫瘍形成性膵炎と膵管癌の内視鏡的鑑別診断. 胆と膵 **20**:

- 297-304, 1999.
- 65) 安田健治朗, 中島正継, 趙 栄濟, 望月直美, 田中聖人, 宇野耕治, 富岡秀夫, 塚田圭子, 上田モオセ, 宮田正年, 長谷川和範, 上野山義人, 酒田宗博, 河端秀明. 膵, 胆道病変に対する細径超音波プローブ検査. 消化器内視鏡 **11**: 27-34, 1999.
- 66) 安田健治朗, 中島正継, 趙 栄濟, 早雲孝信, 望月直美, 田中聖人, 宇野耕治, 塚田圭子, 上田モオセ, 宮田正年, 長谷川和範, 上野山義人, 河端秀明, 酒田宗博. 膵疾患診断における内視鏡的超音波診断 - 慢性膵炎診断を中心に. 総合臨床 **48**: 1692-1697, 1999.
- 67) 安田健治朗, 中島正継. 新しい画像診断の展開, 立体計測. 胃と腸 **34**: 463-466, 1999.
- 68) 安田健治朗, 中島正継, 趙 栄濟, 早雲孝信, 望月直美, 田中聖人, 宇野耕治, 塚田圭子, 岡部義信, 長谷川和範, 上野山義人, 河端秀明, 酒田宗博, 河村卓二, 郡 靖裕. 胆道病変に対する IDUS 検査. 肝, 胆, 膵 **39**: 505-511, 1999.
- 69) 安田健治朗, 宇野耕治, 中島正継. 悪性胆道狭窄に対する ERBD. 消化器科 **28**: 398-403, 1999.
- 70) 安田健治朗, 中島正継, 趙 栄濟, 早雲孝信, 望月直美, 田中聖人, 宇野耕治, 塚田圭子, 上田モオセ, 宮田正年, 長谷川和範, 上野山義人, 酒田宗博, 河端秀明. 超音波内視鏡による胆管癌の進展度診断. 臨床消化器内科 **14**: 1255-1261, 1999.
- 71) 安田健治朗, 中島正継. 内視鏡的超音波断層法による消化管病変の立体計測. 画像診断 **20**: 301-306, 2000.
- 72) 安田健治朗. 健康相談室. 笑顔: 34, 2000.
- 73) 安田健治朗. 健康相談. 舌炎と胃の不調. 暮らしと健康: 83, 2000.
- 74) 安田健治朗, 中島正継. 早期胃癌の画像診断. 総合臨床 **49**: 2402-2408, 2000.
- 75) 安田健治朗, 塚田圭子, 上野山義人. Billroth II 法例における EST. 消化器内視鏡 **12**: 848-849, 2000.
- 76) 安田健治朗. 脱気水充填法による消化管 EUS 検査のコツ. 消化器内視鏡 **12**: 1554-1558, 2000.
- 77) 安田健治朗. 肝胆膵疾患における低侵襲治療 - 内視鏡的処置を中心に. オペナーシング **15**: 466-471, 2000.
- 78) 安田健治朗, 長谷川和範, 中島正継. 主膵管狭窄に対する内視鏡的ステント治療. カレントセラピー **18**: 2213-2216, 2000.
- 79) 安田健治朗. 暮らしと健康相談室. 暮らしと健康: 84, 2001.
- 80) 安田健治朗, 上野山義人, 中島正継. 胆道, 膵疾患 - 即 ERCP は行なうべからず. 消化器内視鏡 **13**: 640-641, 2001.
- 81) 安田健治朗. 新しい内視鏡機器の現状と今後. 映像情報 Medical **33**: 502-505, 2001.
- 82) 安田健治朗, 中島正継, 趙 栄濟, 早雲孝信, 芦原 亨, 宇野耕治, 高橋圭子, 岡部義信, 長谷川和範, 上野山義人. 膵疾患に対する膵管内超音波検査 (IDUS) と三次元超音波検査 (3D-IDUS). 臨床消化器内科 **16**: 75-84, 2001.
- 83) 安田健治朗, 釜口麻衣, 小山 真, 河村卓二, 郡 靖裕, 河端秀明, 上野山義人, 長谷川和範, 岡部義信, 川口義明, 芦原 亨, 早雲孝信, 趙 栄濟, 中島正継. 細径超音波プローブはここまで来た. 消化器内視鏡 **13**: 999-1004, 2001.
- 84) 安田健治朗, 岡部義信, 中島正継. 胆・膵疾患・セミナー 胆道ステンティングの問題点と対策. Medical Practice **18**: 967-970, 2001
- 85) 安田健治朗. 三次元表示に何を求めるのか 内科医からみた三次元画像 消化器内視鏡 **14**: 278-282, 2002
- 86) 安田健治朗, 河端秀明, 中島正継. EUS による三次元画像と Virtual Endoscopy, 臨床消化器内科 **17**: 705-709, 2002
- 87) 安田健治朗, 酒田宗博, 宮田正年, 川口義明, 上田モオセ, 宇野耕治, 田中聖人, 中島正継. 急性閉塞性胆管炎における内視鏡的経乳頭的ドレナージと経皮的ドレナージの選択. 消化器内視鏡 **14**: 1051-1054, 2002
- 88) 安田健治朗, 森川宗一郎, 真崎竜邦, 本田真希, 釜口麻衣, 小山 真, 貴田雅也, 宇野耕治, 田中聖人, 中島正継. 膵疾患診断における三次元 IDUS. 胆と膵 **23**: 363-367, 2002
- 89) 安田健治朗, 田中聖人, 中島正継. 胆石症に対する乳頭括約筋切開術 (EST). 最新消化器内視鏡治療 217-219, 2002
- 90) 安田健治朗. 内視鏡室におけるセーフティマネージメント ERCP・EST・EPBD におけるセーフティマネージメント. 消化器内視鏡 **14**: 1209-1212, 2002
- 91) 安田健治朗. 胆・膵, 機械式碎石バスケット. 消化器内視鏡 **14**: 1394, 2002
- 92) 安田健治朗. Doppler EUS 機器と造影剤の展望. 消化器内視鏡 **15**: 1135-1137, 2003
- 93) 安田健治朗. 内視鏡的胆道ドレナージのリスクマネージメント. 胆と膵 **24**(10): 689-694, 2003

- 94) 安田健治朗, 本田真希, 森川宗一郎, 釜口麻衣, 貴田雅也, 小川真実, 酒田宗博, 宮田正年, 上田モオセ, 宇野耕治, 田中聖人, 趙 榮濟, 中島正継. 悪性閉塞性黄疸の治療の進歩 PTBD (内外瘻). 消化器内視鏡 **16** : 57-61, 2004
- 95) 安田健治朗, 宇野耕治, 中島正継, 経乳頭的胆道 stenting を成功させるコツ. 消化器内視鏡 **16** : 263-268, 2004
- 96) 安田健治朗, 上田モオセ, 宮田正年, 酒田宗博. 経口的胆管鏡の基本. 消化器内視鏡 **16** : 454-457, 2004
- 97) 安田健治朗. 胆・膵 AOSC (急性閉塞性化膿性胆管炎) の造影は圧をかけすぎると. 消化器内視鏡 **16** : 1046, 2004
- 98) 安田健治朗. 胆・膵 PSC (primary sclerosing cholangitis) には禁 EST. 消化器内視鏡 **16** : 1048, 2004
- 99) 安田健治朗. EUS-FNA の現状と将来. 消化器内視鏡 **16** : 1347-1350, 2004
- 100) 安田健治朗, 小川真実, 酒田宗博, 宮田正年, 上田モオセ, 宇野耕治, 田中聖人, 中島正継. 膵管内超音波断層法 (IDUS) による膵癌と腫瘍形成性膵炎の鑑別. 消化器内視鏡 **16** : 1548-1553, 2004
- 101) 安田健治朗, 河村卓二, 酒田宗博. 内視鏡ハイテク機器, 先端技術内視鏡診断—低コヒーレンス干渉 EOCT. 消化器内視鏡 **17** : 783-786, 2005
- 102) 安田健治朗, 小川真実, 郡 靖裕. 電子ラジアル走査式超音波内視鏡. 消化器内視鏡 **17** : 837-839, 2005
- 103) 安田健治朗. ERCP 後膵炎の予防—胆・膵内視鏡処置における膵炎の予防. Progress in Medicine **26** : 110-111, 2006
- 104) 安田健治朗. 急性膵炎診療におけるガイドライン活用. 侵襲と免疫 **16** : 21-24, 2007
- 105) 安田健治朗. 内視鏡的超音波検査の現状. 消化器内視鏡 **19** : 905-908, 2007
- 106) 安田健治朗. 施設としてのセーフティマネージメントにおける内視鏡診療. 消化器内視鏡 **19** : 1178-1180, 2007
- 107) 安田健治朗. 序説 EUS 下穿刺術, これが標準. 消化器内視鏡 **20** : 396, 2008
- 108) 安田健治朗, 田中聖人, 宇野耕治, 西大路賢一, 上田モオセ, 盛田篤広, 河端秀明, 郡 靖裕, 河村卓二, 釜口麻衣, 森川宗一郎, 鈴木安曇, 萬代晃一郎, 糸永昌弘, 宮永靖子, 白川敦史, 中島正継. 膵嚢胞性疾患の超音波内視鏡 (専用機, 管腔内超音波断層) の読影ポイント—超音波内視鏡から診た膵嚢胞性病変. 消化器内視鏡 **20** : 1031-1037, 2008
- 109) 安田健治朗. 胆道疾患診断の進め方. 消化器の臨床 **11** : 617-620, 2008
- 110) 安田健治朗. 詳細な診断法, 内視鏡的胆膵疾患の診断. Pharma Medica **27** : 29-33, 2009
- 111) 安田健治朗. 胆膵 EUS におけるトラブルシューティング概要. 消化器内視鏡 **21** : 1787-1791, 2009
- 112) 安田健治朗. Precutting の基本. 消化器内視鏡 **22** : 706-709, 2010
- 113) 安田健治朗. EUS・これから. 消化器内視鏡 **22** : 1894-1900, 2010
- 114) 安田健治朗. 序説 達人のこだわり. 消化器内視鏡 **23** : 364-365, 2011
- 115) 安田健治朗. EUS-FNA : わが国の現状と世界標準. 消化器内視鏡 **23** : 1441-1445, 2011
- 116) 安田健治朗. EUS を用いた胆膵疾患の診断と治療. 日本消化器病学会雑誌 **110** : 549-556, 2013
- 117) 安田健治朗. 消化器疾患における超音波内視鏡検査—現状とこれから. 最新医学 **68** : 1694-1697, 2013
- 118) 安田健治朗. 胆管拡張をみたら—ラジアル走査 EUS によりアプローチ. 消化器内視鏡 **25** : 194-198, 2013
- 119) 安田健治朗. ラジアル走査 EUS によるアプローチ—診断的意義. 消化器内視鏡 **25** : 194-198, 2013
- 120) 安田健治朗. 巻頭言, Diagnostic and Interventional EUS—現状と将来展望. 臨床消化器内科 **28** : 1687-1688, 2013
- 121) 安田健治朗. よく見られる胆嚢・膵病変の診断と経過観察法—胆嚢ポリープ—胆嚢壁肥厚と膵嚢胞性病変を中心に. 京都消化器医会会報 **30** : 37-42, 2014
- 122) 安田健治朗. Quality Indicator (QI) と Clinical Indicator (CI) の違い. 消化器内視鏡 **26** : 885, 2014
- 123) 安田健治朗. 「胆膵」EUS—べからず 適応. 消化器内視鏡 **27** : 319, 2015
- 124) 安田健治朗. 消化器内視鏡関連—ガイドラインのすべて—序説. 消化器内視鏡 **27** : 356, 2015
- 125) 安田健治朗. マルチメディア時代の内視鏡診療—序説. 消化器内視鏡 **27** : 1742, 2015
- 126) 安田健治朗. 竹本忠良先生追悼—巨星墜つ. 消化器内視鏡 **27** : 1912-1913, 2015
- 127) 安田健治朗. 他. 座談会「消化器内視鏡の教育, トレーニング」への提案. 消化器内視鏡 **27** : 2009-2020, 2015
- 128) 安田健治朗. 膵疾患の診断・治療に用いられる画像検査—EUS, EUS-FNA. 最新消化器看護 **20** : 50-58, 2016
- 129) 安田健治朗. 緩和内視鏡, 序説—緩和医療としての内視鏡治療をいま一度考える. 消化器内視鏡 **28** : 678-679, 2016
- 130) 安田健治朗. 消化器内視鏡の技術革新, 内視鏡的超音波断層法 (EUS). 臨床消化器内科 **31** : 1379-1385, 2016
- 131) 安田健治朗. Interventional EUS における教育. 消化器内視鏡 **28** : 1538-1541, 2016
- 132) 安田健治朗. 膵胆道癌の術前内視鏡. 消化器内視鏡 **28** : 2031-2037, 2016

- 133) 安田健治朗, 年頭所感, 2017 年を迎えて. 消化器内視鏡 29 : 6-7, 2017

和文著書

分担執筆

- 1) 安田健治朗. 超音波内視鏡を用いた膵癌の診断. 竹本忠良, 川井啓市, 山中恒夫 編. 超音波内視鏡の実際. 医学図書出版, 東京 : pp233-241, 1987.
- 2) 安田健治朗. 消化管病変の治療効果判定法としての内視鏡的超音波断層法. 竹本忠良, 川井啓市, 山中恒夫 編. 超音波内視鏡の実際. 医学図書出版, 東京 : pp222-231, 1987.
- 3) 安田健治朗. 超音波内視鏡. 多賀須幸男, 大菅俊明 編. 今日の消化器疾患治療指針. 医学書院, 東京 : pp92-94, 1991.
- 4) 安田健治朗. 超音波内視鏡でみた胃・十二指腸壁. 川井啓市 編. 胃・形態とその機能. 医学書院, 東京 : pp26-29, 1994.
- 5) 安田健治朗. 微小胃癌の診断, 超音波内視鏡による診断. 丹羽寛文 編. 胃癌. 日本メディカルセンター, 東京 : pp313-320, 1995.
- 6) 安田健治朗. 内視鏡的胆道ドレナージ術の手技とチューブ選択. 鈴木博昭 編. 消化器内視鏡のコツと落とし穴. 肝, 胆, 膵. 中山書店, 東京 : pp92-93, 1997.
- 7) 安田健治朗. 膵嚢胞性疾患の内視鏡診断. 鈴木博昭 編. 消化器内視鏡のコツと落とし穴. 中山書店, 東京 : pp24-25, 1997.
- 8) 安田健治朗. メネトリエ病. 竹本忠良, 山中恒夫, 相部 剛 編. 内視鏡下超音波断層法. 医学図書出版, 東京 : pp190, 1997.
- 9) 安田健治朗. 胃梅毒. 竹本忠良, 山中恒夫, 相部 剛 編. 内視鏡下超音波断層法. 医学図書出版, 東京 : pp191, 1997.
- 10) 安田健治朗. 2cm 以下の膵癌. 竹本忠良, 山中恒夫, 相部 剛 編. 内視鏡下超音波断層法. 医学図書出版, 東京 : pp324-325, 1997.
- 11) 安田健治朗. ラジアル走査式による膵臓観察. 竹本忠良, 山中恒夫, 相部 剛 編. 内視鏡下超音波断層法. 医学図書出版, 東京 : pp406-407, 1997.
- 12) 安田健治朗. 膵腫瘍の鑑別診断. 竹本忠良, 山中恒夫, 相部 剛 編. 内視鏡下超音波断層法. 医学図書出版, 東京 : pp540-543, 1997.
- 13) 安田健治朗, 宇野耕治, 中島正継. 経乳頭的胆道ドレナージ術. 丹羽寛文 監, 田尻久雄, 藤田直孝 編. 胆膵内視鏡の実際. 日本メディカルセンター, 東京 : pp83-89, 1998.
- 14) 安田健治朗. 胆道疾患診断における IDUS. 税所宏光 編. 消化器病セミナー 73, 膵, 胆道疾患の新しい検査法. へるす出版, 東京 : pp125-134, 1998.
- 15) 安田健治朗. 早期胃癌内視鏡治療における内視鏡的超音波検査. 中村孝司 編. 消化器診療プラクティス 15, 胃癌, 食道癌の内視鏡治療. 文光堂, 東京 : pp36-43, 1998.
- 16) 安田健治朗. 検査の行い方, コツー胆膵領域. 中沢三郎 監, 芳野純治, 乾 和郎 編. 超音波内視鏡実践マニュアル. 金原出版, 東京 : pp32-43, 2000.
- 17) 安田健治朗, 中島正継. 悪性胆道狭窄に対する内視鏡治療. 鈴木博昭 編. 消化器病セミナー 78. へるす出版, 東京 : pp221-228, 2000.
- 18) 安田健治朗, 他. EST とその応用手技, ガイドライン, 消化器内視鏡ガイドライン 第 2 版. 医学書院, 東京 : pp310-326, 2002
- 19) 安田健治朗. ERCP から EST, EPBD の基礎と応用ーリスクマネージメントの観点から. 岡崎和一 編. 胆膵内視鏡治療の基本手技ー困難例からの対処とコツ. 診断と治療社, 東京 : pp1-11, 2004
- 20) 安田健治朗. ERCP から EST/EPBD の基礎と応用ーリスクマネージメントの観点から. 岡崎和一 編. 胆膵内視鏡治療の基本手技困難例への対処とコツ. 改定第 2 版, 診断と治療社, 東京 : pp2-13, 2007
- 21) 安田健治朗. 胆膵画像診断法ー考え方と選択. 安田健治朗 編, 中島正継 監. 胆膵内視鏡の実際. 日本メディカルセンター, 東京 : pp13-16, 2009
- 22) 安田健治朗, コラム, 美しい ERCP (p124), どんどん広がる ERCP (p146), IDUS は胆膵内視鏡に必要なか (p166), EUS は小膵癌診断の救世主であったか? (p190), 広げよう EUS-FNA の輪 (p200), それでも胆膵内視鏡が好

- きだ (p275). 安田健治朗 編, 中島正継 監. 胆膵内視鏡の実際, 日本メディカルセンター, 東京: 2009
- 23) 安田健治朗. 胆膵内視鏡治療—胆石除去術. 消化器内視鏡 プロフェッショナルの技. 日本メディカルセンター, 東京: pp252-256, 2013
- 24) 安田健治朗. 内視鏡的胆道結石除去術. 今日の治療指針 医学書院, 東京: pp469-470, 2012
- 25) 安田健治朗. コラム: ERCP 雑感: 老兵は死なず. 糸井隆夫 編集. 胆膵内視鏡の診断治療の基本手技. 改定第2版, 羊土社, 東京: pp159-160, 2012
- 26) 安田健治朗. 肝外胆管結石, 総胆管結石. 日本臨床 肝・胆道系症候群 (第二版) pp163-167, 2011
- 27) 安田健治朗. コラム: 私の ERCP の師匠. 糸井隆夫 編, とことん知りたい ERCP の手技のコツ. 総合医学社, 東京: pp572, 2013. 1
- 28) 安田健治朗. EUS, IDUS, 膵・胆道. 浅香正博 他編. 消化器病学・基礎と臨床. 西村書店, 東京: pp362-367, 2013